

コロナ禍でのフッ化物洗口

① コロナ禍でも速やかにフッ化物洗口を再開できた事例

富山県南砺市 山本 武夫（NPO 日 F 常務理事）

新型コロナウイルス感染の広がりによって、飛沫感染に対する警戒から、フッ化物を用いた歯科保健事業が中断されている地域が多いと聞いています。しかしながら、科学的に正しい判断のもと再開している地域もあります。中断中の地域への情報提供として、早くから再開できた地域の事例を紹介します。

平成の大合併で 8 町村が一緒になり富山県南砺市が誕生しました。合併前は独自の歯科保健対策を実施しており、フッ化物洗口実施町村は 2 / 3 程でした。歯科医師会は、合併前から新しい市の歯科保健対策を均一にすべく、リード役の井波町の例（幼・保、小・中でフッ化物洗口実施、歯科保健推進協議会を年 1 回開催して歯科保健事業を評価）を全市で進めることを決め、新南砺市行政と歯科医師会が協議を重ねました。こうして、合併 3 年目には全市での幼・保、小・中でフッ化物洗口が開始しました。今日まで、必要あれば養護教諭会に公衆衛生担当理事が出席し説明をしてきました。

今回の新型コロナの学校休校措置に対して南砺市歯科医師会は、休校時の家庭環境（祖父母の養育や子どもみの留守家庭などが多く元々むし歯が多い地域）からむし歯が増加することを懸念し、「日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会の見解」を 4 月早々に、南砺市教育委員会子ども課（保育園等担当）教育総務課（小中学校担当）に示し、早々の再開を促しました。その結果、市教委は小規模校や準備の整った施設から夏休み前に再開し、2 学期には大規模校まで、ほぼ全施設が再開に至りました。日頃の行政と歯科医師会の連携の賜物と思います。

南砺市教育委員会から施設に提供した書類は以下のものです。（同様の書類を各学校にも配布）

フッ化物洗口における感染症予防対策（注意点）について

南砺市教育委員会子ども課

● 新型コロナウイルス感染症等の感染防止のため、下記の点に注意しながら実施する。

【事前】

- ・当日の児童及び職員の体調チェックを徹底する。
- ・室内の換気を十分に行う。
- ・実施中はふざけず、静かに落ち着いて実施するよう、事前に対象児童に声かけを行っておく。
- ・可能な限り、人と人との距離をあけ、全員が同じ方向を向いて実施する。

【洗口時】

- ・ブクブクうがいの際は、座って下を向いた姿勢で行う。
- ・むせやすい・唇から洗口液がもれやすい児童等は、周囲に洗口液や唾液が飛び散る恐れがあるので、ティッシュペーパー等で口元を覆って実施する。

【洗口後】

- ・上手にコップに吐き出すことのできない児童は、口元（下唇の下あたり）にティッシュペーパー等を置きながら吐き出す。使用したティッシュペーパーは、他者やごみ箱の外側などに触れないようにごみ箱に入れる。
- ・流しに洗口液を流すときも、できるだけ手や顔、衣服に飛び散らないよう十分に気を付ける。
- ・実施後に手洗いや手指のアルコール消毒等を実施する。

【その他・事後】

- ・使用したコップは毎日家に持ち帰り、中性洗剤等を使用して洗浄し、十分に乾かすよう保護者に伝える。

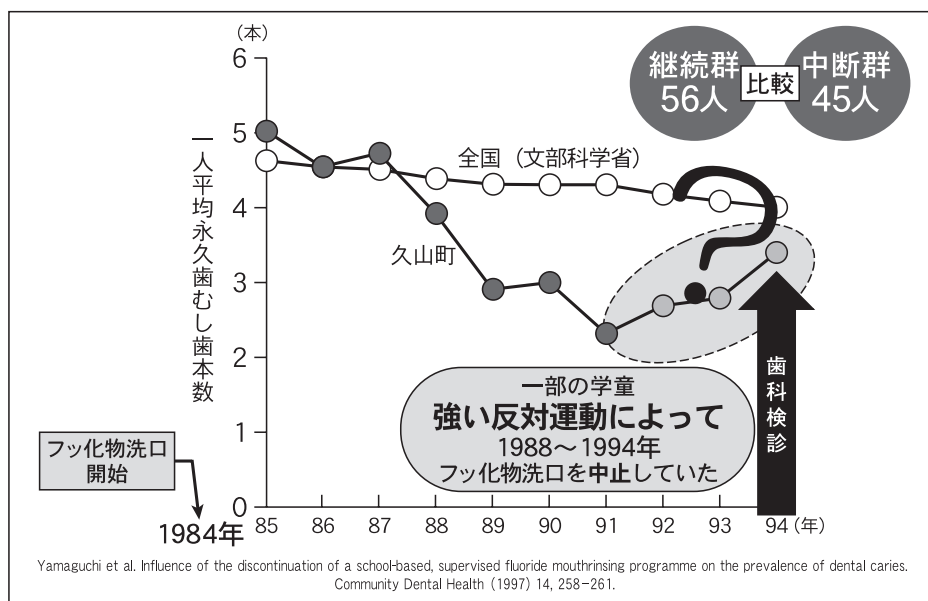
② フッ化物洗口を中断して、むし歯が増えた事例

私たちがフッ化物洗口を進めてきた歴史の中で、残念ながら中断してしまい、その後の歯科健診でむし歯が増加した事例がいくつかあります。また、東日本大震災のような、災害後避難生活を送る子どもたちのむし歯増加の報告もあります。

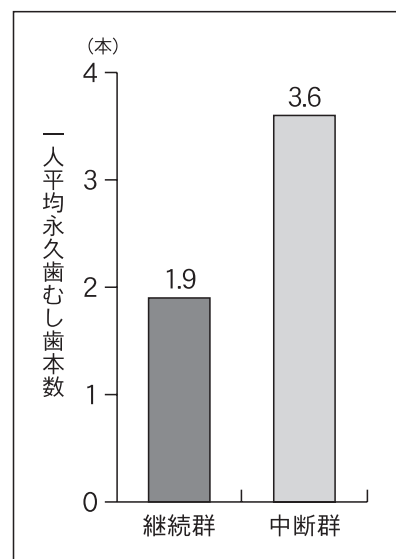
今回の新型コロナウイルス感染症の拡大防止・予防の措置として、学校の休校が全国一斉におこなわれましたが、この場合も同じく、むし歯の増加が大変憂慮されるところです。そこで、一刻も早くフッ化物洗口が再開されるよう関係者の皆様のお力添えをご期待申し上げます。

福岡県久山町でのフッ化物洗口中断後の報告がありますので、紹介いたします。

詳細な資料は HP で紹介します。



12.5歳児のむし歯の推移（全国、福岡県久山町）



フッ化物洗口継続群と中断群のむし歯の比較

③ 最近、問い合わせが多い、医薬品としてのフッ化物洗口製剤使用の解釈について

今回のフッ化物洗口中断後の再開時に、中断前は NaF 試薬を使用していた施設で、医薬品を使用しなければ再開できないという情報がありました。

これについては誤解があるようです。NaF 試薬を管理する薬剤師さんが測りとり、溶解して、900ppmF 以下の洗口液を作製し、施設に配布して洗口するという今までの過程に、問題はありません。従って、NaF 試薬の在庫があるところはそのまま使用しても問題ありません。

また、再開を機会に医薬品に変更するという時に、材料価格が大幅にアップするという懸念もあります。しかしながら、NPO 日 F でもつ資料によれば、一人の子どもさんが1回洗口するときの費用は、NaF 試薬では1.4円、医薬品では、500g ボトル（薬剤師さんが分包）2.1円、ピンク袋（1080包）だと2.4円、集団用スティックでは2.9円と、ほぼ1.5～2倍程度の費用で済みます。10数年前のように、試薬より3～4倍かかるという事はありません。また、クラス毎の溶解瓶も400円程度、紙コップも現在は1個1円以下で購入ができます。